

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4091300048		
法人名	株式会社 ケアリング		
事業所名	グループホーム 竹の庵		
所在地	福岡県福岡市城南区片江1丁目20番10号 (電話) 092-865-5444		
自己評価作成日	平成 22 年 5 月 15 日	評価結果確定日	平成 22 年 7 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は、特に食事に力を置いています。大分・耶馬溪産の無農薬米を、食べる分だけ精米して召し上がっています。出来る限り、輸入食材は使わず、国産の食材を使って調理しています。買い物、調理・後片付けも入居者様と一緒にいきます。たまに、切り方が違ったりするときはメニュー変更をするときもあります。社長自ら無農薬の取れたて野菜や旬の食材を持ってきてくださることもしばしばあります。また、月に1回は全員で外食に出かけます。入居者の方の健康状態が良いうちにと、旅行や野球観戦など既成概念にとらわれずイベントを計画しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	平成 22 年 5 月 27 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

住宅街の一角に、ウッドデッキのあるデイサービスを一階に配し、木をふんだんに使った二階建ての事業所である。事業所内にも大黒柱や木材を使い、天窓からの採光で室内は明るく、古時計や絵画を掛ける等、温かく落ち着いた雰囲気である。プランターで野菜を育て、職員と利用者が共に手入れや収穫をし、日常的に季節感が感じられるよう配慮している。職員は、利用者の「生きる心地よさ」をサポートするため「笑顔と思いやり」の提供を目標に、年度の事業計画を作成し、一体となって実践に努めている。また、国産無農薬米や旬の野菜等、食材にこだわったバランスのよい食事を提供し、利用者家族の協力を得ながら定期的に筋肉向上リハビリに取り組む等、利用者の健康に留意し、内部研修等を行ってケアの質の向上に日々取り組んでいる。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『生活の心地よさは、生きる心地よさ』の理念の基、我々は日々入居者の方々がこのような気持ちで生活されるよう努力しています。それを、達成する為の目標として『優しい笑顔と思いやりで、生きる喜び作り』を实践するよう、勤務前に毎日唱和しています。	地域密着型の視点をもって日々利用者のケアに取り組んでいるが、事業所独自の理念に地域密着型の視点は無い。	地域密着型サービスとして何が大切かを全職員で協議等を行い、これまでの理念に加えて、地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげてほしい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回の外出行事において、近所のレストランへでかけたり、喫茶店にでかけたりしています。	利用者が地域の馴染みの美容室を利用したり、近隣住民から花を頂く等、地域との交流が少しずつ始まっている。	今後は地域行事や活動に参加したり、事業所の行事に地域住民へ参加を呼びかける等して、地域との交流に努めてほしい。
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出の際に店舗のスタッフとの会話の中での説明だったり、入居者が声かけられた地域の方に説明をしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在のところ、実施できていません。しかし、来月に実施する予定です。	運営推進会議を開催していない。	早急に運営推進会議を開催してほしい。運営推進会議を活かして地域とのつながりを深め、今後は2ヶ月に1回開催し、サービスの向上に努めてほしい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険上の疑問点がある場合、連絡をしています。	介護に関する疑問点等を相談したことはあるが、継続的な連携は特にならない。	事業所が抱えている問題の相談や現状を報告する機会をつくる等し、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでほしい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回のミーティングにおいて、ケア内容の検討の際に、身体拘束につながる介護のあり方を、その都度、挙げています。	身体拘束のマニュアルがあり、ミーティング等で意見交換しながら、身体拘束をしないケアの実践に努めている。居室及び玄関は施錠していない。玄関の出入口にベルを設置し、職員は外出傾向がある利用者には見守りや付き添いを行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回のミーティングにおいて、ケア内容の検討の際に、虐待につながる介護のあり方を、その都度、挙げています。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月1回のミーティングにおいて、権利擁護に関する制度の勉強会をしています。	制度に関するパンフレットがあり、内部研修を行っている。利用者・家族等へは、制度について特に説明をしていない。	利用者や家族へ制度について情報提供してほしい。また、研修記録を残し、資料等は職員がいつでも確認出来るように事業所で保管してほしい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、ご家族様に対して、契約書・重要事項説明書を基に説明を行っています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の来所時に、お話しする機会を設け、そこで得られた意見を職員間の総意として介護記録に挙げたり、経過記録を作成しています。その結果を、ご家族様に報告して、介護計画にたいして理解をいただいています。	利用者・家族等の意見は、日々のケアの中や家族来訪時、年1回開催の家族会等に積極的に声かけして聴取するよう努めている。利用者の要望をレクリエーションや献立に反映している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングにおいて、運営上の問題点や改善してほしい点を挙げてもらっています。すぐに改善できる点はその場で決定し、その後は進捗状況を確認しながら、改善しています。	管理者は、ミーティング時等に職員の意見や要望を聴取する機会を積極的に設け、勤務体制等、運営に反映している。管理者へ直接話にくい場合は、別の職員が意見等を聴取する機会を設ける等、工夫している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	まず、労働時間の短縮から図り、業務内容の改善を通して、以前よりも随分と改善しています。給与に関しても、今年に入り2度、改善をされました。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	当事業所では、採用に当たっては何の区分もありません。高齢のスタッフの採用や経験のないスタッフの登用も行っています。その中で、経験の有無に関わらずお互いがカバーしあいながら働けるように配慮しています。	職員の採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。職員の希望があれば、法人内の他事業所への異動ができ、内部研修に力を入れ、誰もが安心して働ける職場環境を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ケアリングでは、入居者様に対して出来る限り、個人の意思を尊重して対応しています。人生の先輩として敬いの念をもって接しています。	人権に関する外部研修に一部職員が参加している。研修資料がある。	全職員が内部または外部研修へ参加の機会を持ち、人権教育を実施してほしい。また、研修記録を残し、資料等は職員がいつでも確認出来るよう事業所で保管してほしい。
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当事業所では、未経験の職員が多く、認知症のケアに関する悩みが多く発生しています。管理者・計画作成担当者が中心となり、その都度、アドバイスをしたり、社外研修制度を設け、自発的に研修を受けれる態勢を整えています。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くのグループホームと職員を交流させています。また、管理者は、2ヶ月に1度、他施設の管理者との交流会に参加しています。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様とお話の中から、生活史を読み取り、グループホームで何をやりたいのかを考え、実践しています。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に当たって、ご家族様のご意見を伺い、ご本人様の負担にならないように配慮しながら、出来る限り実施しています。また、進捗状況は、来所時や電話にてご報告しています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療的リハビリが必要な場合は、かかりつけ医の診断後、ご家族様と相談の上、必要なサービスの利用を検討する。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当事業所では、ここで生活されている方主体で、出来ない部分を職員がお手伝いするという考えで介護を行っています。そのため、ご本人の出来ることを常に考えながら、なんでも一緒に仕事をするように心がけています。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	我々職員は、あくまでもいち介護職員であり、家族にはなりえないということを自覚しています。ご本人様やご家族様の関係を第一に考え、彼らの希望に添えるように考えています。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅が近所で、帰宅願望の強い入居者様には、時々、自宅に戻っていただいたり、行きつけの美容室に行って頂いています。	利用者が友人に会いに行ったり、馴染みの美容室や喫茶店、商店に出かける等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士での会う合わないがあります。ストレスになるような場合は、環境を整えたりしています。しかし、縫い物や食器拭きなどは手分けをして、出来るだけ多くの方にしていただけるようにしています。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた入居者の方に関しては、職員からケアに関して相談をうけました。ここでの経験などを詳しく説明しています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様の意向を第一に、希望を叶えるべく配慮しています。また、積極的に意見を述べられない方に関しては、生活状況を踏まえ、新たな方法を提案しながら、安心・安楽に過ごせる様に努めています。	利用者一人ひとりの言動や表情から、本人の思いや希望を把握するように努めている。意思疎通が困難な利用者は、家族から情報を得たり、アセスメントを見直す等し、本人本位に検討している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各個人の生活史から、どのようなことが好みなのかを把握し、日々の余暇活動や生活活動に取り入れています。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録の中に特記事項として、不穏状態における別紙に経過記録として記入しています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護記録の中に日々変わる入居者様の状態を把握し、短期的・長期的な計画の変更を記入しています。また、ご家族様からの新しい意見をや希望も考慮して柔軟な介護計画の作成に努めています。	介護計画は、利用者・家族の要望や職員の意見等を反映し、個別具体的に作成している。3ヶ月に1回また利用者の状態変化や状況に応じて、介護計画を見直している。介護計画作成後は家族等へ説明し、署名をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の中に日々変わる入居者様の状態を把握し、短期的・長期的な計画の変更を記入しています。管理者・計画作成担当者だけでなく、変化に気づいた職員が記入し提案しています。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的には、病院受診などはご家族様がお連れしてはいますが、その時の状況により、職員同伴で行ったりしています。また、近くの歯科医院の受診に関しては地域交流や外出の機会と捉え職員がお連れしています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公園での花見をしたり、近隣の方がお花を持ってきていただいたり、お庭に招待をして頂くこともあります。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所では、24時間往診の可能なかかりつけ医と提携しています。その他の病院を受診される場合は、ご家族様との相談の上、希望される病院に、かかりつけ医を通じて受診できる様に支援しています。	本人及び家族等の希望を大切に、今までのかかりつけ医や事業所の協力医での24時間体制の受診を支援している。家族と受診時の通院介助や情報伝達の方法について話し合い、合意している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	計画作成担当者が、看護師資格を有しており、他職員から挙げられる体調の変化や日常生活での変化をまとめ、月2回の往診時にかかりつけ医に報告し、適切な医療的な指示を受けています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	近くに提携している病院があり、受診した場合に、当事業所での状況を説明しています。ご家族様の意見を尊重しながら、入院か通院かを院長と相談しています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在の入居者様に関しては、お元気な方が多く、具体的な終末期のお話はしていません。この方針では、終末期に向けた介護もしていく方針である。	重度化した場合や終末期のあり方について事業所の方針があり、利用開始時に利用者や家族等へ説明している。利用者本人の状態を見ながら、必要に応じて、家族、職員、主治医で話し合い、方針を共有している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療事故・緊急時のマニュアルを整備しており、手順通りに行えるようにしています。また、個別に、消防署等で行われる研修に参加しています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3月に、城南消防署立会いの下、火災・避難訓練を実施しています。その際は、夜間1名体制の避難訓練を想定し、実施しています。また、近隣住民様にはチラシを配布して、緊急時の協力体制をとっています。	マニュアルがあり、年2回、消防署の協力を得て、消火訓練、緊急通報、避難訓練を実施している。近隣住民に対し、災害時における協力要請のちらしを配布している。非常用備品の準備は特にならない。	避難訓練を実施する際は、運営推進会議を通じて地域住民へ参加協力を呼びかけたり、災害時対策に関する理解を求め、協力体制を築いてほしい。また、災害に備えて、非常用食料・飲料水、備品を準備してほしい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様が長年生きてこられた人生の先輩として、尊敬の念を持ちながら接しています。そのことを踏まえながら、あまり堅苦しくないように声かけするようにしています。トイレ誘導の際など、他入居者様に配慮をしながらさりげなく促しています。	管理者は、職員の言葉かけや対応について、利用者一人ひとりの誇り等を損ねないよう日頃から指導している。職員は、利用者を傷つけてしまわないよう、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意見を積極的に言える方は自由に訴えて頂いています。その他の方は、職員のほうから、出来るだけ自発的な意見が出るような声かけに努めています。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様本位に立ち戻り、優先順位を常に考え入居者様が求める時には、どのようなことでもそのことを優先にするようにしています。その為、業務分担や日々の流れを柔軟に変更しています。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様が忘れていた時など、さりげなく勧めしています。入居者様同士でも身だしなみに関して注意をしあったり、散髪したり、新しい服を着たりしたときなどは声をかけるようにしています。また、外出のさいには、化粧をしていただくようにしています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては、力を入れており、バランスの取れた献立の提案から、食事準備（配膳や調理）片付けなどは役割として積極的に行われています。また、食事＝楽しい時間と認識して頂く為、食後はしばらく団欒の時間としてくつろいでいます。食事中は音楽をかけ、集中して召し上がれるように配慮しています。	利用者一人ひとりの嗜好を把握し、体調に合わせて調理方法を工夫し、食事を楽しめるよう配慮している。職員は利用者と共に準備・片付けを行い、利用者と同じ食事を同じテーブルで食べている。また、利用者の馴染みの音楽をかけ、職員はさりげなく見守りをしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全入居者様の食事摂取量の把握、個別の水分摂取量を把握し、脱水症状にならないように配慮しています。水分摂取が不十分な入居者様には日常の中で水分を職員が促すようにしています。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアは実施しています。自力・半介助・全介助と区別していますが、半介助の方も時間をかけたり、気分が良いときはご本人様がされることもあり、その時々に応じて対応しています。ご家族の希望のある方に関しては、定期的に歯科受診をしています。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁傾向にある入居者様に関しては、毎日排泄チェックを行っています。定期的な排泄誘導を行い、出来るだけ失禁する前に排泄が行えるように促しています。また、個別の状況により、リハパンを中止したり、夜間のみにしたたりし、できる限りリハパンの使用を減らしています。	利用者一人ひとりのサインを把握し、さりげなく支援している。排泄チェック表を作成し、利用者や家族の要望を聴取しながら、排泄の自立を意識したケアを心がけている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活係りを主体として、ミーティング時に研修をしています。そして、献立作成の段階で、野菜中心としたニュー作りを心がけています。野菜は1日350グラム以上の摂取を目安としています。薬も併用していますが、出来る限り運動や水分補給、腹部マッサージ等で、自然排便があるように取り組んでいます。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴に関しては、職員数の関係上、午後の時間帯にしています。基本的に冬季は2/週夏季は3/週を目安に実施しています。その他は、柔軟に対応しています。拒否がある場合は順番を遅らせたり、翌日に延期したりと入浴がストレスにならないように配慮しています。	いつでも入浴できるよう支援している。入浴を拒否する利用者には、言葉かけやタイミングを計る等し、入浴を楽しむことができるよう支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には、リビングで過ごしていただけるように促してはいます。しかし、居室で休みたい方に関しては、夜間の睡眠に支障がないように配慮して、過ごしていただいています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬をする前に、必ず確認をしています。新たに、薬が増えたり減ったりする場合は服薬前後の状態をかかりつけ医に報告するようにしています。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで生活されていた習慣をここでも続けていただくようにしています。喫煙・晩酌も自由にいただいています。洋服の仕立てをしていた方には、裁縫全般を担っていただいています。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1度は全員で外出を計画しています。外食であったり、花見、野球観戦などが挙げられます。また、日々の中でも、気分転換に散歩や、食材の買い物、個人の買い物等外出の機会を設けています。	利用者一人ひとりの希望や天候等を考慮しながら、散歩や買い物、ドライブ、外食等支援している。花見や野球観戦等の外出は、家族と協力しながら支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員がしていますが、個人の買い物の際には、見守りのながらご本人がレジで精算できるようにしています。個人的に金銭を持たれている方はいらっしゃいませんが、希望されるときにはご家族様に相談後、買い物に出かけています。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	頻回に電話を訴える入居者様には、ご家族様と相談の上、職員の携帯電話にかけていただき、落ち着いていただいています。しかし、定期的にご家族様から電話をしていただくようにしています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の清掃は毎日、入居者様としてしています。環境も転倒を招くような障害物を取り除いています。職員の自宅で育ててあるお花を生けたり、季節ごとの催し物の小物を置いて季節感を取り入れています。	共用空間は、いたるところに生花を飾り、花や野菜をプランター栽培する等、季節感を採り入れている。利用者にとって不快と感じるにおいや音はなく、天窗を設置して自然採光をとり入れ、明るく落ち着いた雰囲気である。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの座る位置については、入居者様の状況に合わせて、気の合う利用者様同士が過ごせる様に配慮しています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、出来るだけ居室の家具類は入居者様の使い慣れた家具を置いて頂く様になっています。	居室には、利用者の馴染みの家具やラジオ、時計、家族写真等があり、利用者本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内には全ての壁面に手摺りが付いており、それを持ちながら、回遊できるようにしています。また、手摺りを持ちながら、足上げ運動をしたり、エレベーターで降り、昇りは階段を使つての歩行訓練もしています。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	-	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	-	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	-	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
			○	④全くいない
68	-	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	-	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	-	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない